

第三者評価結果の公表事項(児童養護施設)

①第三者評価機関名

福島県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK2019006・2107、3004、2907

③施設の情報

名称：森の風学園	種別：児童養護施設	
代表者氏名：園長 熊田 富美子	定員（利用人数）：24名（24名）	
所在地：福島県石川郡玉川村大字四辻新田字諏訪平125-5		
TEL：0247-57-3788	ホームページ： http://yumemi.or.jp/publics/index/31/	
【施設の概要】		
開設年月日：平成26年12月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人 ゆめみの里		
職員数	常勤職員：14名	非常勤職員 9名
有資格 職員数	（資格の名称） 保育士 7名 看護師 1名 調理師 3名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居住棟3棟（各8室）	管理棟、心理療法棟

④理念・基本方針

【理念】

安心…ありのままの姿を受容・共感し、喜びをもった生活をおくる。

信頼…自分を信頼し、他者を信頼する。

自立…内面からわき起こる自らの考えを育て、自ら実践するための意思をつくる。

感謝…すべてに感謝の気持ちで受け止める心をつくる。

【基本方針】

理念を念頭に置き、プロセスを大事に考え、丁寧に繰り返し行う。明朗で愛和に満ちた生活をおくる。子どもが自分の力で生きていけるための経験・智慧を身につけさせる。子どものお手本となる大人となり、子どもの情操を涵養する。報告・連絡・相談をし、チームで児童の養育に当たる。

⑤施設の特徴的な取組

森林や川など豊かな自然の中に3ヶ所の居住棟を設置し、快適で心身ともに健康的に生活できるよう、子どもたちの養育・支援に取り組んでいる。

設立から6年目を迎え、今春、初めて進学する卒園生を送り出した。その際には、オープンキャンパスや居住予定地の見学などに職員が同行して子どもの不安軽減に努めており、卒園後も連絡を取り合い子どもの自立に向けて寄り添った支援を展開している。

また、療育プログラムの実施に向けて、様々な生活場면을捉えながら取り入れることができるよう担当職員を中心に取り組んでいる。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年7月27日（契約日）～ 令和3年1月23日（評価結果確定日）
前回の受審時期（評価結果確定年度）	平成29年度

⑦総評

◇特に評価の高い点

<衣食住の充実を図る養育・支援>

栄養バランス等を考慮した温かい食事を提供するとともに、個室としての空間が確保された居住スペースで快適な生活ができるように子どもたちを支えている。

また、子どもの年齢や個性を尊重し、好みに合わせた衣類が選べるように、買い物等の個別支援が充実している点は高く評価できる。

◇改善を求められる点

<中・長期的な視点に立った施設経営と業務改善>

これまで地域小規模施設の運営などを目指した議論を行ってきた経緯はあるが、資金計画も含めて具体的な方向性は定まっていない。

将来的なビジョンを明確にしたうえで単年度ごとに事業を実施していくことが施設の発展につながるため、今後は、組織として議論を深めながら中・長期計画を明文化してほしい。

加えて、中・長期的な施設の発展のためには、組織的・計画的な業務改善も重要となるので、課題となっている部分をできるところから計画性を持って改善し、質の高い福祉サービスの向上に努めていただきたい。

<人材の確保・育成と適正な人事管理制度の構築>

人材の確保が課題であると認識し、勤務体系を見直すなど働きやすい職場環境づくりに向けた努力を行っている。

また、将来に向けた事業展開や必要な人材についての構想はあるものの、基本的な考え方や育成等に関する具体的な計画は策定していない。

職員が仕事にやりがいを持ち、長く勤めていきたいと思うためには、明確な人材育成の方針と仕組みが大切であり、適正な人事評価システムが必要となる。職員が自らの将来を描くことのできる総合的な人事管理制度を構築し、人材の定着につなげてほしい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の第三者評価は、第2回目になる。総評では、衣食住の充実を図る養育・支援をしていることを特に評価の高い点として評価を頂いた。これは、児童の措置施設として、基本的なところではあるので、今後も子どもの視点に立ち、子どもの最善の利益を考え、より良い養育・環境づくりを目指していきたい。養育・支援の質の確保、子ども本位の養育・支援などは児童養護施設には非常に大切な項目である。引継ぎの文書・行ったことについての記録、子どもが満足しているかの現状を知るための定期的な調査など、今後の課題は多大である。一つひとつ構築し、子ども達が安心して過ごせるよう改善していきたい。

また、施設の運営管理の面では、中・長期的な視点に立った施設運営と業務改善を行わなければならない。当法人は組織的な運営の組み立てが出来ておらず、質の高い福祉サービスの向上を目指すために早急に改善していかなければならないところである。事業計画の策定、施設長の責任とリーダーシップなどは特に弱いところであったことを重くとらえ、それを自覚し施設運営を行うこととする。更に、人材の定着にもつながる重要事項である「組織づくり」を重点項目とし、中・長期計画を作成した上での施設運営を行うよう改善していきたい。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

第三者評価結果（児童養護施設）

※すべての評価細目（45項目）について、判断基準（a・b・cの3段階）に基づいた評価結果を表示する。

※判断基準（a、b、c評価）の定義

「a 評価」：よりよい福祉サービスの水準・状態、質の向上を目指す際に目安とする状態

「b 評価」：a に至らない状況、多くの施設・事業所の状態、a に向けた取組みの余地がある状態

「c 評価」：b 以上の取組みとなることを期待する状態

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

共通評価基準（45項目）

評価対象Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
I-1-(1) 理念、基本方針を確立・周知している		
①	I-1-(1)-① 理念、基本方針を明文化し、周知を図っている。	a・b・c
<コメント> 事業計画に示された理念や目標からは、施設の特性を踏まえた考え方を読み取ることができる。 しかし、パンフレット等とは表現が異なっている面も見受けられるため、一貫した表現に統一してほしい。		

I-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	I-2-(1)-① 施設経営をとりまく環境と経営状況を的確に把握・分析している。	a・b・c
<コメント> 児童養護施設部会に所属するとともに、郡内の自立支援協議会に参画するなどして、社会的養護施設を取り巻く状況の把握に努めている。 今後は、様々な環境の変化に対応していくため、幅広く把握した情報の分析を積極的に行ってほしい。		

③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設経営の課題は、理事会等で共有するとともに、職員との個別面談の機会も活用し、職員も現状認識できるよう努めている。</p> <p>現在の大きな課題は、地域小規模施設の運営や人材の確保・育成とのものであり、具体的な取組が進んでいくことを期待したい。</p>		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画を明確にしている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画を策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>過去の理事会等において、地域小規模施設の運営を目指した議論を行ってきた経緯はあるが、具体的な中・長期計画の策定には至っていない。</p> <p>今後は、収支計画も含めた中・長期ビジョンの策定に向けて活発な議論を進めていただきたい。</p>		
⑤	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画を策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>現在の単年度計画は、中・長期計画が無い中での策定となっている。</p> <p>今後の中・長期計画の策定を期待する。</p>		
I-3-(2) 事業計画を適切に策定している。		
⑥	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しを組織的に行い、職員が理解している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>事業計画を策定するにあたっては、各棟ごとに1年間の振り返り・評価を行ったうえで目標を立てていく手順となっている。</p> <p>その手順の中で職員の参画も促されているものの、情報の共有という点では不十分な面も見受けられるので、参画プロセスを見直してほしい。</p>		
⑦	I-3-(2)-② 事業計画を子どもや保護者等に周知し、理解を促している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもや保護者に対する周知は、行事計画のみに留まっているため、事業計画を周知するまでには至っていない。</p> <p>特に、子どもに周知する際には、分かりやすい表現で、ポイントを絞った内容の事業計画を別途作成しておくことが望ましい。</p>		

I-4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組を組織的・計画的に行っている。		
8	I-4-(1)-① 養育・支援の質の向上に向けた取組を組織的に行い、機能している	a・b・c
<p><コメント></p> <p>サービスの質の向上に向け、第三者評価基準に基づいた自己評価を毎年行うとともに、定期的に外部評価機関の評価を受けている。</p> <p>しかし、養育・支援の質の向上のためには、組織的に取り組むことが必要であり、人権擁護のチェックリストの活用も含め、職員全体で議論を深めてほしい。</p>		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>第三者評価の結果を職員間で共有する取組は行われているものの、日常の業務に忙殺され、具体的な改善まで至らない部分が多い。</p> <p>今後は、明確になった課題をしっかりと職員と共有し、一人ひとりが改善策を提案できるような仕組みづくりを行ってほしい。</p>		

評価対象Ⅱ 施設の運営管理

Ⅱ-1 施設長の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 施設長の責任を明確にしている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長の役割・責任は、職務分掌や有事に備えた危機管理マニュアルなどに明示されているものの、職員や子ども、保護者等に対して、自らの役割を表明しているとは言い難い。</p> <p>年末年始や年度替わりなど節目の機会を捉えて、施設長自らが全職員に対する説明を行うことを検討してほしい。</p>		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>労務管理に関しては、社会保険労務士の助言を得ながら改正に取り組み、法令の遵守に努めている。</p> <p>福祉サービスを提供する組織としては、福祉分野に限らず、社会通念上のルールや倫理等コンプライアンスの徹底が求められるのでより幅広く把握をし職員にも継続的に周知してほしい。</p>		
Ⅱ-1-(2) 施設長のリーダーシップを発揮している。		

12	Ⅱ-1-(2)-① 養育・支援の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長は、養育・支援の質の向上に取り組むため職員の意見を取り入れているものの、定期的・継続的に評価をする仕組みが不十分である。</p> <p>養育・支援の質の向上に組織的に取り組む必要があるため、職員の積極的な参画を促す仕組みを整備し、職員の教育・研修を充実させてほしい。</p>		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>今年度、職員の労働環境改善のため勤務形態の変更等を行っている。</p> <p>しかし、業務の実効性を高めるために様々な視点から検証していく取組が弱いため、施設の将来性や経営資源の有効活用などを視野に入れ施設を運営してほしい。</p>		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制を整備している。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画を確立し、実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>将来に向けた事業展開や必要な人材確保についての構想はあるものの、具体的な計画にはなっていない。</p> <p>今後は、施設の中・長期的なビジョンを打ち出すとともに、それに併せた計画的な人材確保・育成に取り組んでほしい。</p>		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の基本姿勢や心構えなどの期待する職員像を職員に周知してはいるものの、人事管理に関して明確に定められた基準があるとは言い難い。</p> <p>職員が自らの将来を描けるようにするためにも、組織の理念に基づいた異動や昇進・昇格、能力開発、人材の評価、待遇など総合的な人事管理制度を構築してほしい。</p>		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮している。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の就業状況の確認を行うとともに、個人面談を通して家庭の状況などを含めて職員の就業意向も確認し、それに基づいて勤務形態や勤務時間の変更等も行っている。</p> <p>今後は専門家のアドバイスも受けながら、働きやすい職場づくりを目指して努力を重ねてほしい。</p>		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制を確立している。		

17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員の基本姿勢や心構えなどの期待する職員像を職員に周知しているものの、一人ひとりが業務や支援の目標を掲げることはしていない。</p> <p>施設では個別面談の機会を作っているため、その機会に併せて目標面接を行うなど、職員のモチベーションを高める取組を進めてほしい。</p>		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画を策定し、教育・研修を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>定期的に外部から講師を招くなど、職員の資質向上を図るためのOFF-JT（職務を離れた研修）の機会が確保されている。</p> <p>しかし、OJT（職務を通じた研修）やSDS（自己啓発援助制度）も併せた人材育成の方向性が不明確なので、研修成果の評価・見直しを行い、よりよい人材育成に取り組んでほしい。</p>		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修等の機会を確保している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>職員には様々な職種を経験してきた者も多く、様々な知識や技術を身につけているが、職員自らが学ぶ姿勢を大事にしようと、職員個々が希望する外部研修への参加を奨励している。</p> <p>今後は、スーパービジョンの体制を整え、OJT（職務を通じた研修）の強化を図ってほしい。</p>		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成を適切に行っている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設では、6月～2月の期間で毎年20人程度の実習生を受け入れており、今年から実習の特性に配慮したプログラムの検討を始めたところである。</p> <p>実習生の受け入れは、将来の児童福祉を担う人材の育成に関わるため、今後はマニュアルを整備し、引き続き積極的に取り組んでほしい。</p>		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組を行っている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>ホームページを活用して施設の理念等を伝えるとともに、ワムネット（福祉医療機構）の電子開示システム上で決算状況などの財務諸表を公開している。</p> <p>今後は、現在休止している広報誌の発行を再開するなどして、施設の情報発信に努めてほしい。</p>		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組	a・b・c

	を行っている。	
<p><コメント></p> <p>施設の経理規程に基づいた会計処理を行い、その財務状況は、法人の監事監査の他、税理士である法人理事が定期的にチェックしている。</p> <p>より公正で透明性の高い法人を目指すために、上記のような内部統制の仕組みに加えて、外部の専門家による指導・助言を受けることも検討してほしい。</p>		

II-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係を適切に確保している。		
23	II-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>学校の部活動に積極的に参加できるよう支え、また、学校の友人も施設に遊びに来ることを可能にするなど、入所児童が級友と交流を深めることができるよう配慮している。</p> <p>また、小さい子どもは地域の行事に数多く参加し、子どもが少ない地域にとって大きな役割を果たしているのので、その取組を明文化するように努めてほしい。</p>		
24	II-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>定期的に学習ボランティアが施設を訪れ、子どもたちの学力向上を支えてくれている。また、不定期ではあるが、文化系・スポーツ系のボランティアも受入れている。</p> <p>ボランティア受入れに関する規程は整備されているが、ボランティアに対する要請内容のみを記載するのではなく、受入の意義や活動メニューを整理し、広く参加を募れるような工夫を望みたい。</p>		
II-4-(2) 関係機関との連携を確保している。		
25	II-4-(2)-① 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携を適切に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>児童養護施設にとって重要な連携先である児童相談所とは、定期的に情報共有を図っており、学校とも行事を通じて連携している。</p> <p>今後は、入所児童の支援に関する連携のみに留まらず、地域の子どもに共通する課題を解決するような広い視点に立った取組を期待したい。</p>		
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>地域の行事や路肩の除草等を通じて住民と交流する機会が多く、また、法人としては隣接している市において児童発達支援事業を行っているため、障がい児の相談に応じる機会があ</p>		

<p>る。</p> <p>今後は、福祉の専門性を活かし福祉ニーズの発掘につながる仕掛けを検討し、地域住民に貢献する社会福祉法人を目指してほしい。</p>		
27	<p>Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動を行っている。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>これまで、地域住民を小旅行に連れていき交流を深めるなど地域コミュニティの活性化に一役買ったことはあるが、福祉ニーズに基づく公益的な活動だったとは言い難い。</p> <p>社会福祉法人の役割を踏まえ、専門性を活かした公益的活動とは何かをしっかりと考え、新たな取組が始まることを期待したい。</p>		

評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施

Ⅲ-1 子ども本位の養育・支援

		第三者評価結果
<p>Ⅲ-1-(1) 子どもを尊重する姿勢を明示している。</p>		
28	<p>Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>理念やガイドラインに子どもを尊重する姿勢を明示するとともに、園内研修において小児精神科医師の助言を得ながら職員が理解し実践できるよう努めている。</p> <p>今後は、標準的な実施方法等に反映できるよう努め、定期的に実施状況の把握・評価を行い、必要に応じて対応できるよう園内の仕組みを整備してほしい。</p>		
29	<p>Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援を行っている。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>居室はひとりの空間となるよう工夫されており、入浴や排泄等の様々な生活場面においてプライバシーに配慮し取り組んでいる。</p> <p>居室への立ち入りや手紙の開封等にあたっては子どもの同意を得て実施していることから、現在の取組を規程やマニュアル等で明文化し、子どもや保護者等に周知してほしい。</p>		
<p>Ⅲ-1-(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）を適切に行っている。</p>		
30	<p>Ⅲ-1-(2)-① 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設の概要や養育・支援の内容等を紹介した資料を作成し、これを用いて入所決定前の子どもに説明している。また、保護者には児童相談所を通じて情報提供を行なうとともに、希望に応じて見学等の対応をしている。</p> <p>今後は、説明資料を子どもの年齢に応じたわかりやすいものとなるよう、適宜見直しをし</p>		

ていただきたい。		
31	Ⅲ-1-(2)-② 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもや保護者等にわかりやすく説明を行ない、同意を得ながら自己決定を尊重する取組を行っているものの、個別に対応している状況があり、書面として様式等を確認することは出来なかった。</p> <p>今後は、施設としてルールや様式を定め、子どもや保護者との認識の違いを是正するためにも書面に残すことを検討してほしい。</p>		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設長や担当者を中心に子どもや保護者からの連絡、問合せに個別的なサポートを行っているが、その手順や引継ぎ文書については整備されていない。</p> <p>今後は、引継ぎや送りの手順を整理した文書を定め、施設を退所した後も相談できる担当者や窓口を書面で伝えることができるよう整備してほしい。</p>		
Ⅲ-1-(3) 子どもの満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>送迎等の時間を利用し、職員が子どもの話を個別に聞いているが、子どもの満足の向上を目的とした仕組みは整備されていない。</p> <p>まずは、子どもがどれだけ満足しているか現状を確認するために定期的に調査を行い、施設として子どもの満足の向上に向けた仕組みを整備することが望まれる。</p>		
Ⅲ-1-(4) 子どもが意見等を述べやすい体制を確保している。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>苦情解決に関する規程や要綱に基づいた体制を整備し、これまでの記録を適切に保管している。</p> <p>今後は、苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した資料を作成し、子どもや保護者に周知するとともに、意見箱は一か所に留まらず各棟に設置するなど、苦情を申し出やすい環境整備に努めていただきたい。</p>		
35	Ⅲ-1-(4)-② 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもが相談しやすいスペースとして各棟職員室や親子訓練室などを利用し個別対応している。</p> <p>しかし、わかりやすく説明した文書の作成や掲示等の取組は確認できなかったため、今後</p>		

は、その方法や体制を文書にまとめ子どもや保護者に周知してほしい。		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>日頃から職員は子どもの傾聴に努め、相談や意見が述べやすい環境づくりに努めている。しかし、その対応マニュアルがないので、今後は、子どもの意見や要望、提案等に対応するための具体的なマニュアルを整備し、職員に周知徹底いただきたい。</p>		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組を行っている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制を構築している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>危機管理対応マニュアルや不審者対応マニュアルを整備し職員に周知するとともにヒヤリハット、事故防止集を作成し事例の収集に努めている。今後は、リスクマネジメントに関する委員会を組織内に設け、職員参加のもと最新の事例収集に努め、分析や改善に向けて取り組んでいただきたい。</p>		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>感染症マニュアルを整備するとともに、嘔吐物処理の仕方をテーマとした研修などを行っている。また、感染症予防の資料を各棟に掲示するなど、子どもに対しても周知徹底を図っている。今後は、看護師を中心に、定期的に感染症予防に関する勉強の機会を設けてほしい。</p>		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>災害時の対応体制を決め、日頃から担当者を決めて避難訓練や防災訓練を計画的に実施し、食料の備蓄リストを整備し災害に備えている。今後は、事業継続計画（BCP）の策定を通じ、安否確認の方法や職員の出勤基準などを定めることを望みたい。</p>		

Ⅲ-2 養育・支援の質の確保

		第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 養育・支援について標準的な実施方法を文書化し、養育・支援を実施している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>標準的な実施方法のガイドラインを作成し、それに基づいた養育・支援に努めているものの、その周知が十分ではないため職員による対応のばらつきが散見される。今後は、研修や個別指導等による標準的な実施方法の徹底を図るとともに、適切に実施さ</p>		

れているか確認する仕組みを整備してほしい。		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>現在のガイドラインは、長期間に渡って検証や見直しが行われていなかった。今後は定期的に検証し、必要な見直しを組織的に行う仕組みを整備し、PDCAサイクルによって検討を行ない職員の共通意識を醸成いただきたい。</p>		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画を策定している。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>自立支援計画は責任者を配置したうえで、外部の児童精神科医師のアドバイスも受けながら策定しているが、アセスメントの手法は確立されていない。養育・支援の開始直後には、事前に把握していた心身の状況や生活状況が異なる場合もあるため、適切なアセスメントの実施方法を施設内で検討し、養育・支援に必要な子ども一人ひとりのニーズ把握に努めてほしい。</p>		
43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>半年毎に処遇会議を開催し、自立支援計画に基づいた養育・支援が行われているか確認するとともに、今後の支援計画について見直しを行なっている。まずは、これまでの取組を踏まえて、処遇会議の参加職員や子どもの意向把握と同意を得るまでのプロセス、また、見直された計画を職員に周知する方法などについて手順としてまとめ、緊急に計画を変更する際の仕組みについて検討してほしい。</p>		
Ⅲ-2-(3) 養育・支援の実施の記録を適切に行っている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録を適切に行い、職員間で共有化している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>日々の個人記録を通じて自立支援計画に基づいた養育・支援が行われているか確認しているが、施設内での情報共有は不十分である。記録にあたっては表現内容の統一に努めているので、今後は情報の伝達方法、手段、ルールなどについて組織内で検討してほしい。</p>		
45	Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>個人情報の保護や情報の開示に関する規程を整備するとともに、責任者を配置し適切な管理をしている。今後は、子どもの記録の保管、保存等について規程に定めるとともに職員に対する教育や研修を実施いただきたい。</p>		

内容評価基準（25 項目）

※「共通評価基準評価対象Ⅲ 適切な養育・支援の実施」の付加項目

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

		第三者評価結果
A-1-(1) 子どもの権利擁護		
A①	A-1-(1)-① 子どもの権利擁護に関する取組を徹底している。	Ⓐ・c
<p><コメント></p> <p>定期的に権利擁護に関する勉強会等を開き周知・共有を図り、また、園長や主任も現場に入り、直接的なアドバイスを行うなど、具体的な取組が行われている。</p> <p>子どもの権利擁護は施設の使命・役割の基本であることを忘れず、現場での実践や研修を通じてより専門性を高め、意識の向上を図ってほしい。</p>		
A-1-(2) 権利について理解を促す取組		
A②	A-1-(2)-① 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>権利について理解を深めるために、わかりやすい法律の本を使い説明をしたり、障がいに関する番組を視聴するなど、日常生活の中で子どもと話をする機会を設けていることは、障がいのある子どもや弱い立場にある子どもへの思いやりへつながらる支援といえる。</p> <p>今後は、全職員が子どもの年齢や状態に応じてわかりやすく説明できるよう、伝え方等を工夫し共有していただきたい。</p>		
A-1-(3) 生い立ちを振り返る取組		
A③	A-1-(3)-① 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>年齢や発達状況へ配慮しながら個別の事情にも応じて慎重な対応をするとともに、親の意向にも配慮し、児童相談所との連携も図っている。また、担当職員が子どもたち一人ひとりのアルバムを準備し、要望にも合わせるなどの工夫も見られる。</p> <p>子どもによって、伝えるタイミングや伝え方がまちまちであるため職員間での情報共有を図ってほしい。</p>		
A-1-(4) 被措置児童等虐待の防止等		
A④	A-1-(4)-① 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a・Ⓑ・c
<p><コメント></p> <p>子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見の取組に関して、職員間でも周知・確認がされている。また、子ども間の暴力に対しては厳しく伝えており、放置することなく対処している。</p>		

<p>しかし、職員の考え方や支援方法がそれぞれによって異なることもあるため、迅速な対応につながる援助技術を習得できるような研修や話し合いを持つことが望まれる。</p>		
<p>A-1-(5) 子どもの意向や主体性への配慮</p>		
A⑤	<p>A-1-(5)-① 職員と子どもが共生の意識を持ち、生活全般について共に考え、快適な生活に向けて子ども自身が主体的に取り組んでいる。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>中・高校生は、毎月の小遣いを自分で管理でき、買い物などを計画的に行うことで、金銭感覚を身につけることができている。また、自然豊かな環境の中、自然とのかかわりを生かす遊びも自由に行われ、見守る支援もできている。</p> <p>しかし、子どもが自分たちで主体的に生活の問題や課題を検討する機会は一部の行事に限られているため、日常生活の中でより主体性を引き出せるような支援の検討を望みたい。</p>		
<p>A-1-(6) 支援の継続性とアフターケア</p>		
A⑥	<p>A-1-(6)-① 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>施設入所時は、兄弟間の対応にも配慮しながら施設全体で温かく迎える工夫をしている。また、退所時に備えて自分のことは自分でできるよう、基本的な生活習慣を習得できるよう支援している。</p> <p>今後は、子ども一人ひとりのケースに応じながら、生活の連続性を大切にした入・退所の支援を行い、子どもの不安軽減に努めてほしい。</p>		
A⑦	<p>A-1-(6)-② 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>昨年、初めての卒園生を送り出すにあたり、職員は県外のオープンキャンパス等へ同行するなど、本人に寄り添う支援を行い、不安解消につなげていた。また、退所後も交流を持ち続けていることは、本人にとっても、在園生にとっても励みになっている。</p> <p>今後は、特定の職員との個人的相談にとどまらず、施設が組織として対応するため情報の共有と記録の整備が望まれる。</p>		

A-2 養育・支援の質の確保

<p>A-2-(1) 養育・支援の基本</p>		
A⑧	<p>A-2-(1)-① 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。</p>	a・b・c
<p><コメント></p> <p>学校への送迎時などの時間も活用し、子どもたちの感情や言動を受け止め、その年齢に合った対応を心がけている。また専門家からアドバイスを受けたり、内部研修を実施するなど、</p>		

<p>子どもと共に課題に向き合う姿勢もみられる。</p> <p>しかし、話し方や聴き方、態度に差異がみられ、子どもたちに誤解が生じることもあるため、子どもに対するアンケートを実施するなどの方法を取り、職員への信頼関係を構築できるよう努めていただきたい。</p>		
A⑨	A-2-(1)-② 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの基本的欲求を満たすために、職員との信頼関係を基本に可能な限り個別対応を行っている。また、高校生に対しては、アルバイトやスマートフォンなどに関するルールを作っている。</p> <p>施設のきまりを守ることは大切なことではあるが、子どもの状況や時代の変化に応じて柔軟に対応する場合も出てくるため、常にルールを点検・見直しするなどの取り組みを行ってほしい。</p>		
A⑩	A-2-(1)-③ 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>基本的に子ども一人ひとりを見守りながら、その子どもに合わせた言葉かけや行動を意識し支援をしている。また、状況に応じて励ましや感謝の言葉を積極的にかけて、子どもの自信や自己肯定感につながるかわり方が見られる。</p> <p>しかし、職員不足や新しい勤務体制に職員が慣れていないこともあるため、子どもの育ちを見守る姿勢が失われないよう努力してほしい。</p>		
A⑪	A-2-(1)-④ 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>発達の状況に合わせ可能な限りニーズに応えた支援を行っている。子ども一人ひとりの状況を把握しながら、まだ一部ではあるが、運動機能の向上のためのプログラムや知的感覚、SSTなどの療育を始めている。</p> <p>今後は、子どもの健康の保持や安全面について子どもが理解できるよう支援することを望みたい。</p>		
A⑫	A-2-(1)-⑤ 基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>日常生活の中で、一緒に家事を行ったり、自然に触れたりしながら知識や技術を伝え支援している。また、地域行事には積極的に参加し、楽しみながら社会性も学ぶ良い機会としている。</p> <p>身体の健康についての自己管理は、その都度年齢に合わせた支援を行ってはいるが、歯磨きや入浴などの習慣化が難しく、基本的な生活習慣の習得に向けての支援に努めてほしい。</p>		
A-2-(2) 食生活		
A⑬	A-2-(2)-① おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	a・b・c

<p><コメント></p> <p>食事は栄養バランスや食物アレルギーにも考慮され、下校時間に合わせた食事の提供もできるように配慮している。また、定期的に嗜好調査を実施しており、希望のメニューも提供している。</p> <p>一方で、棟によって年齢層や男女比に幅があり、なかなか食事中にコミュニケーションを図ることが難しいため、和やかな雰囲気の中食事ができるよう引き続き努力してほしい。</p>		
A-2-(3) 衣生活		
A⑭	A-2-(3)-① 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもの年齢や状況に応じた管理ができており、高年齢児には自分で服を選べるよう一緒に買物へ行き、本人のこだわりや個性を尊重し、好みに合ったものを購入する配慮がとられている。また、部活動でのユニフォーム等、必要に応じて個別対応をしている。</p> <p>季節やTPOに合わせ選択や整理保管を伝えているが、衣習慣の習得が難しい子どももいるため、衣服を通じて自己表現ができるような支援を引き続きしてほしい。</p>		
A-2-(4) 住生活		
A⑮	A-2-(4)-① 居室等施設全体がきれいに整備され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	㉑・b・c
<p><コメント></p> <p>個室としての空間が確保され、ベッドと作り付けのロッカーも備えられ、日用品等は個人で管理ができ、壁飾りなどもそれぞれが工夫を凝らした居室になっている。</p> <p>部屋の整理整頓、掃除の指導・支援を行う際には、片づけが苦手な子どももいるため、職員がチェック表を用いながら、状況に応じた掃除等の習慣が身につくよう引き続き取り組んでほしい。</p>		
A-2-(5) 健康と安全		
A⑯	A-2-(5)-② 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>毎朝検温を実施し、子ども一人ひとりの健康状態を把握している。また定期的に身体測定を行い、個人の記録として残し肥満児の対応等、健康管理に努めている。</p> <p>持病を持っている子どもについては、医療機関、子ども園、消防等で緊急時に連携ができるようにしているが、限られた職員しか対応できないため、職員間での情報交換・共有を行い、関連の研修が実施できる体制を整えてほしい。</p>		
A-2-(6) 性に関する教育		
A⑰	A-2-(6)-① 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てるよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	a・㉑・c
<p><コメント></p> <p>今年度初めてNHKのテレビ番組を利用し、全員で視聴する機会を持つなど、他者の性を尊</p>		

<p>重する心の育成と子どもの性に対する正しい理解を促す取組を行った。</p> <p>性教育のプログラム作りを定期的に行えるよう準備しているため、今後は、職員向けのマニュアルも作成するなど、年齢や発達に応じて日常的に子どもが学べるよう取り組んでほしい。</p>		
<p>A-2-(7) 行動上の問題及び問題状況への対応</p>		
A⑱	A-2-(7)-① 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対し、適切に対応している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子ども同士のトラブルによる怪我があった場合は児童相談所へ報告をしている。また学校や保健福祉事務所、児童相談所とも連携し、改善に努めている。</p> <p>職員一人ひとり子どもの様子に関心を払い、寄り添いながら不適切行動や大きな暴力に至らないよう支援をしているが、職員間との連携や、改善策や問題要因の分析も不十分なので今後は、職員の研修をはじめ、適切な援助技術の習得に取り組んでいただきたい。</p>		
A⑲	A-2-(7)-② 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないように施設全体で取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>問題が起きた場合は児童相談所への報告を行うとともに、問題発生の予防も兼ねて個別に定期的な面談を児童相談所が行っている。施設としても暴力行為が起きないように細心の注意を払っている。</p> <p>年齢の幅や子ども同士の相性から困難な面はあるものの、施設内で十分な検証を行いながら職員全体の協力体制を整えてほしい。</p>		
<p>A-2-(8) 心理的ケア</p>		
A⑳	A-2-(9)-① 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>心理療法担当職員は配置されていないため、必要な子どもには児童相談所の心理士に依頼して定期面談を実施している。また、職員は児童精神科医のアドバイスを受けており、個別の課題についての対処法等の助言をもらっている。</p> <p>今後は心理療法担当職員を配置できるよう検討をしてほしい。</p>		
<p>A-2-(10) 学習・進学支援、進路支援等</p>		
A㉑	A-2-(9)-① 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>子どもたちの学習を支援するために定期的に学習ボランティアの支援を受けている。また、特別支援学級や特別支援学校との連携が図られており、就職に関する支援など良い関係性ができている。</p> <p>現在は子どもたちの忘れ物が増えているようなので、生活時間に追われ忙しい中ではあるが、チェック表を活用するなど子どもの支援に努めてほしい。</p>		
A㉒	A-2-(9)-② 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができる	a・b・c

	よう支援している。	
<p><コメント></p> <p>子どもたちの進路に関しては職員会議で情報を共有し、どの職員でも自己決定にかかわれる話ができるようにしている。また、進路実現に向けて、子どもと十分に話をしながら取り組んでいる。</p> <p>進路の決定にあたっては、子どもも不安に感じる事が非常に多いため、きめ細かな聞き取りをするとともに、必要な情報提供ができるよう努めてほしい。</p>		
A⑳	A-2-(9)-③ 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>アルバイトを経験することでお金を稼ぐ大変さや金銭管理、責任感など、多くの学びを得ることができる。そのため、社会の仕組みやルール、施設との約束なども職員と話し合い、将来の自立に役立つよう支援をしている。</p> <p>今後は、将来に備えて施設独自の実習先や体験先を開拓することも検討してほしい。</p>		
A-2-(10) 施設と家族との信頼関係づくり		
A㉑	A-2-(10)-① 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>家庭支援専門相談員が主となり家族からの不安や思いを受け止め対応している。持病がある子どもにおいては、児童相談所のみならず、医療機関とも連携を図り、両親共々支援を行っている。</p> <p>今後は、家庭支援相談員を中心に施設全体で家族関係の調整を行い、関係機関との連携のもと適切な支援に取り組んでほしい。</p>		
A-2-(11) 親子関係の再構築支援		
A㉒	A-2-(12)-① 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a・b・c
<p><コメント></p> <p>ケースの見立ては家庭支援専門相談員を中心に児童相談所や関係機関と連携し親子関係の再構築に努めている。</p> <p>しかし、全職員との情報共有が不十分であるため施設全体で家族支援ができるような仕組みづくりを構築してほしい。</p>		